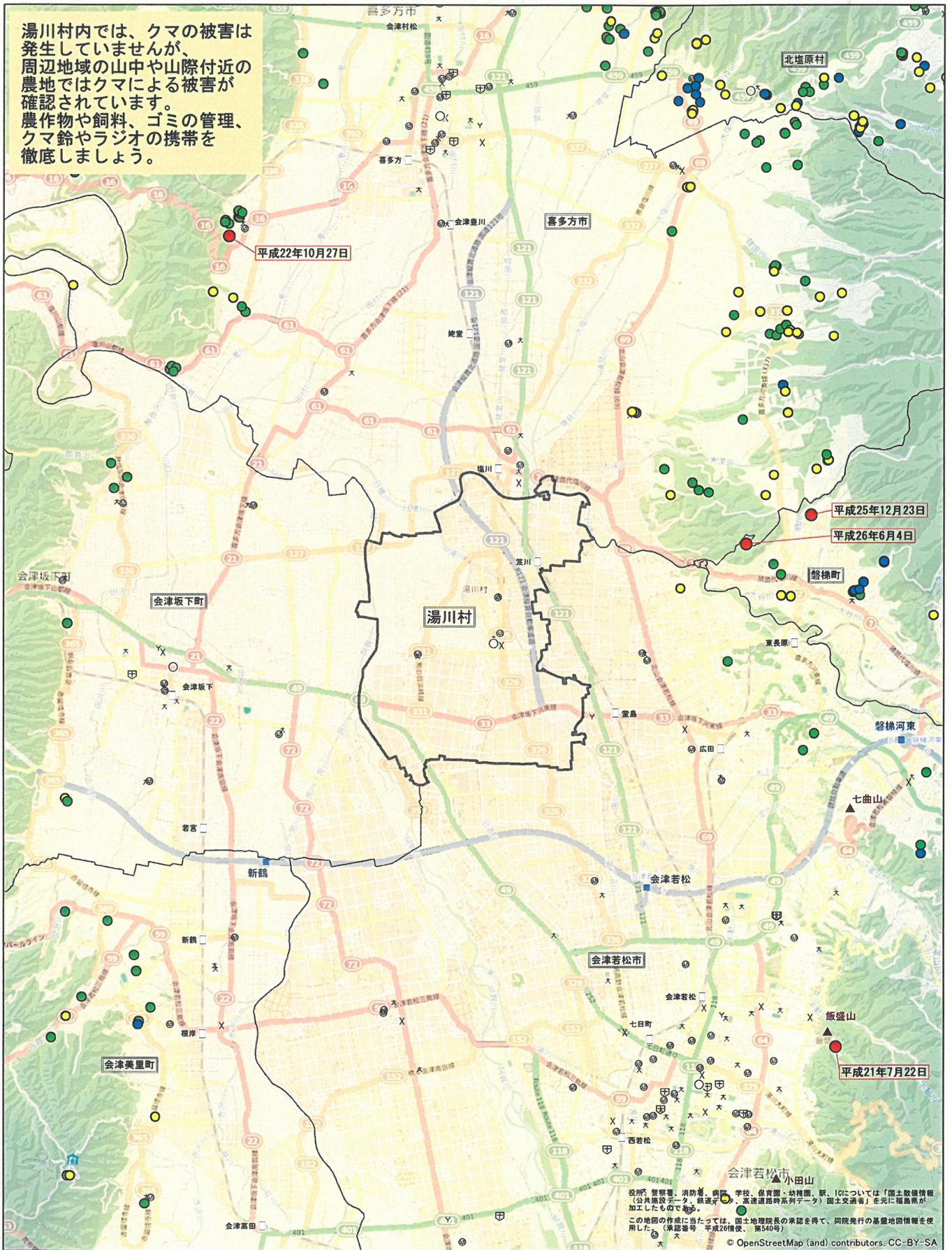


湯川村内では、クマの被害は発生していませんが、周辺地域の山中や山際付近の農地ではクマによる被害が確認されています。農作物や飼料、ゴミの管理、クマ鈴やラジオの携帯を徹底しましょう。



平成22年10月27日

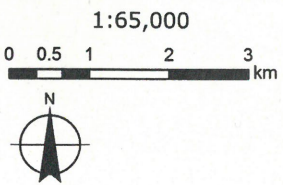
平成25年12月23日

平成26年6月4日

平成21年7月22日

役所、警察署、消防署、病院、学校、保育園・幼稚園、駅、ICについては「国土数値情報（公共施設データ、鉄道データ、高速道路時系列データ）国土交通省」を元に福島県が加工したものです。
この地図の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。（承認番号：平成26年度 第54号）
© OpenStreetMap (and) contributors. CC-BY-SA

※「会津くまナビ」のクマ捕獲、農業被害、目撃の場所及び件数は、有害捕獲許可等申請書及び被害発生調査書に記入された情報のみを記載したものです。



凡例			
○ 役所	⊕ 病院	□ 駅	● 人身被害 (H21-26)
X 警察署	✕ 学校	■ IC	● 捕獲 (H22-26)
Y 消防署	⊙ 保育園・幼稚園	▲ 山岳	● 農業被害 (H22-26)
			● 目撃 (H22-25)

鈴 クマに注意!!

福島県自然保護課
会津地域ツキノワグマ対策協議会

クマは一般的に人に対し警戒心が強い動物といわれていましたが、最近は里でもたびたびクマが目撃されるようになりました。これは、狩猟など人の圧力の減少、森林環境・里地里山の変化などからクマが里へ出やすくなり、クマが人間に慣れ、警戒心がなくなってきたためといわれています。クマとの遭遇を避け、被害を未然に防ぐために次のような取組が重要です。

1 里を餌場と認識させないための対策

知らず知らずのうちに、クマがあなたの周辺に住み着こうとしているかもしれません。クマの生息する場所としないよう、次の点に注意しましょう。

- ① クマの餌となりうる生ゴミ、廃棄果樹等を人家の周りに放置せず、コンポストできちんと管理する。
- ② クマの恰好の餌となる柿や栗の木などは残さず収穫する。
- ③ 米ぬか、家畜飼料、ペットフードはフードストッカーや納屋等に保管する。
- ④ クマは身を隠すヤブを通過して人家近くまで出没するので、集落や通学路等を点検して、ヤブ刈りを見直しをよくなる。
- ⑤ 田畑、納屋※を餌場にさせないよう電気柵で囲む。
- ⑥ 花火などによる追上げを適切に行う。
- ⑦ 出没の多い地点に「熊出没注意」の看板を立てる。

※ ニワトリ等が被害を受ける場合は電気柵設置が必須です



2 遭遇しないための対策

あなたの周辺にクマがいるのかわかることが大切です。もし、いたとしてもクマは積極的に人間を襲うことはほとんどありませんので、遇わないようにすることが必要です。

- ① クマがいるのかわかる。(痕跡を調べる)
 - クマの糞：人間と同じかちょっと大きめで形も人間と同じ。食べ物によって変化。
 - 足跡：幅は成獣で7~13cm。形は右図を参照。→
 - 熊棚：樹上に折った枝を集めたもので、鳥の巣に似ているが、枯葉がつくことで区別。
 - 熊はぎ：スギやヒノキの樹皮を剥がす行為のこと。
- ② クマの行動を知り、遇わないようにする。
 - クマの痕跡や目撃情報がある場所では突然出遭わないよう特に注意して、**クマ鈴、ラジオ**などなるべく大きな音が出るものを身に付け、クマに自分の存在を知らせながら行動し、必要に応じて引き返す。
 - 1日の中で活発に行動するのは朝夕。日中、集落や田畑周辺のヤブに潜んでいることがある。山際での農作業時も**クマ鈴、ラジオ**など、音のするものを身につけて注意して作業をする。



3 出遭ったとき、興奮させないために

- ① 遠くにいるのを発見した場合は、あわてずそっと立ち去る。
- ② クマが興奮するので、大声で叫んだり、石や棒切れを投げつけたりしない。
- ③ クマから目を離さないようにして、できるだけゆっくりと後ずさりしながらクマから離れる。
- ④ 背中を見せて逃げると、クマは本能的に襲ってくるので、走って逃げない。
- ⑤ 子グマを見かけても、そばには必ず親グマがいると考え、決して近寄らない。



4 クマ出没と山の実り（ドングリの豊凶）との関連

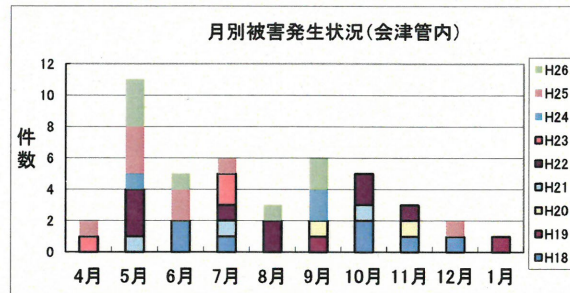
クマの出没は、堅果（ブナ、コナラなどのドングリの実）の実りと関連があるとされています。ドングリの実りが豊作の年はクマ出没が減少し、凶作の年には出没が増加する傾向にあります。夏頃の山の実りの状況にご注意ください。

5 会津管内の平成18~26年度のツキノワグマによる人身被害の傾向と注意点

① 月別発生状況

5月の被害発生が最も多いため、冬眠明けのクマの活動が盛んになる時期は特に要注意。

次に、夏野菜、果物が実る7月、そして、稲やソバが実る9月の被害が多いので、田畑に行く時、そばを通る時に要注意。また、冬眠前の10月もそれに次いで多いので、山に行くような時に要注意。

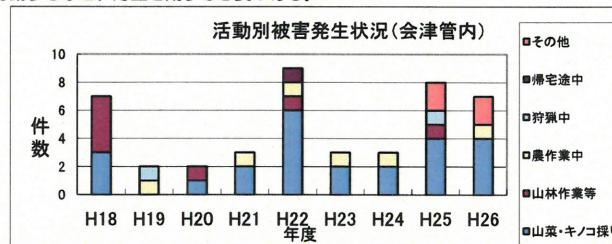


② 活動別被害発生状況

月別発生状況と連動するが、5月の山菜採り時の被害が最も多い。

また、7月、9月の田畑での農作業中に襲われることが多い。

さらに、10月のキノコ狩りで里山に行く時にも被害が多いので、クマ鈴などを着用し、複数で行動するなど、万全を期する必要がある。



クマによる被害を少なくするために

現在はテレビや新聞、インターネットなど様々な方法で、クマが目撃されたり人身事故が起こったことを知ることができます。詳しくは、会津地方振興局のホームページ「クマにご注意ください!!」参照。(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/O1240a/kumatyuu01.html>)

しかし、高齢者の方や山林近くに一人でお住まいの方は、情報に触れる機会が少なく、今までの感覚に頼って一人で山菜採り等に行ったり、注意を払うことなくヤブが近い畑で農作業をして、クマに出会ってしまうことがあります。

最近、子グマのときから人里の近くで生息することで人間生活の音に慣れ、人をおそれないクマもみられるなど、クマの生態も変化しています。

このチラシを手にしたことをきっかけに、「クマには十分な注意と対策が必要」「日頃から地域環境を整備して、クマを寄せ付けない取組が必要」という認識を持っていただくとともに、家庭や地域で声を掛け合い、近所の子どもや高齢者、他からの入山者など多くの方に伝えていただきたいものです。身近なことから始めていきましょう。